

令和6年7月22日

情報公開・個人情報保護審査委員会 御中

最高裁判所事務総長

理由説明書

苦情申出人は、最高裁判所がした一部不開示の判断に対し、令和4年4月現在までの最高裁判所の職員配置図記載の氏名は開示されていたため、不開示情報に相当しない旨主張しているが、下記のとおり当該判断は相当であると考える。

記

1 開示申出の内容

令和5年度の職員配置図（全部署）（4月1日以降の最新版）

2 原判断機関としての最高裁判所の判断内容

最高裁判所は、1の開示の申出に対し、令和6年6月3日付けで一部不開示の判断（以下「原判断」という。）を行った。

3 最高裁判所の考え方及びその理由

- (1) 苦情申出人は、令和4年4月現在までの最高裁判所の職員配置図記載の氏名は開示されていたため、不開示情報に相当しない旨主張するが、本件開示対象文書のうち、上記主張に係る氏名記載部分を不開示とした理由は以下のとおりである。すなわち、本件開示対象文書は、いずれも最高裁判所に所属する職員の執務時の着席位置を示した図面であるが、最高裁判所が行う業務の内容等を踏まえれば、職員の執務時の着席位置を公にすると、特定の職員の事務を停滞させる目的・態様での執務室への来訪等がされることにもつながりかねず、最高裁判所の事務の適正な遂行に支障を及ぼすおそれ（行政機関の保有する情報の公開に関する法律第5条第6号）がある。そのため、職員の氏名の記載部分

を含め、職員の執務時の着席位置が分かる情報は不開示とした。

また、一部の職員配置図の欄外に、職員の氏名及び勤務状態等が記載されているが、これは個人識別情報（法5条第1号）に相当することから、不開示とした。

(2) 苦情申出人は、上記のとおり主張するが、最高裁判所の事務の適正な遂行に対する支障を及ぼすおそのの有無や程度は、開示申出がなされた時点の状況によって異なるものであるから、かつて開示されていた情報がその後も当然に開示されるものではない。

(3) よって、原判断は相当である。